

子ども同士の間人間関係づくりは教師が仕組む！

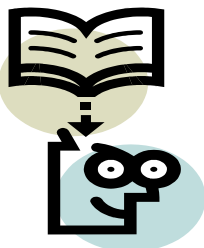
新学年が始まり1ヶ月がたちました。子どもたちも新学年になってからの生活に慣れてきたところでしょう。
ところで、学級の子供たちはどんな様子ですか？ 何か心配なところはありますか？



小学1年担任のA先生	子どもたちは元気なのはいいのですが、毎日けんかが絶えません。いつも泣いている子がいます。他の子の迷惑になるようなことをやっても謝らない子もいます。この先やっていけるのかしら？
小学3年担任のB先生	クラス替えがありました。特定の友人としか遊ばない子がいます。他の子が来ると「まげてあげない」と強烈に言ってしまう。自分のやりたいことばかりして、他の子から嫌がられています。
小学5年担任のC先生	仲のよかった子が転校してしまい、いつも一人で行動している子がいます。全体的に女子は2人組などのグループで動き、排他的で友人の幅が広がらず、グループ間のトラブルもあります。
中学1年担任のD先生	授業はクラスで受けますが、休み時間のたびに同じ小学校出身同士が集まってヒソヒソ話をしています。それがトラブルの原因になっています。そのことで「学校を休む」と言う子が出てきそうです。

このような状況がずっと続いたらどうなるでしょう？

不登校のきっかけ第1位は友人関係をめぐる問題
不登校になった直接のきっかけとして、中学校では「友人関係をめぐる問題」が第1位です。小学校でも、「本人に関わる問題」に続いて第2位の理由にあげられています。
初めて不登校になった時期は、中学1年は小学6年の約7倍
初めて不登校になった時期は、小学6年の10人から、中学1年では69人になっています。中学1年の友人関係に注意を払う必要があります。
(平成15年度問題行動等調査の本市の実態による)



子ども同士の間人間関係を深める場をつくらう
不登校の予防や、トラブルが生じたときの解決は、「何も起こっていないとき」にどれくらいつながりをもてたかにかかっています。このことは、教師と子どもの関係のみならず、子ども同士の関係でも言えることです。ただし、子どもたちの自然な動きに委ねているだけでは、人間関係の広がりや深まりは十分に得られません。子ども同士の間人間関係づくりには、教師の意図的な働きかけがきわめて重要なのです。



人間関係づくりのノウハウは、体験を通してしか学ぶことができません。では、そのような体験の場は、どのようにしてつくればよいのでしょうか？
それには、朝の会や帰りの会、学級活動、日々の授業などの時間の一部を活用して、人間関係づくりを目的とした様々な活動を、教師がリーダーシップを発揮して実施し、日常的に積み重ねていくことが有効です。
例えばこんな活動が考えられます。

< 裏面に続く >

例えばこのように・・・

はじめに、ねらいやルールをはっきり提示します。

「今日は、 をやります。ねらいは、 です。始める前にルールを言います。」(板書をする)

ゲームなどの活動をしします。

(例1) 新聞紙ジグソーパズル

ねらい:「グループのチームワークを高める」

- ・4～6人組をつくる。(普段の活動班がよい)
- ・班で1枚新聞紙を取りにくる。
- ・新聞紙を縦に3回、横に2回折って折り目をつける。
- ・折目に沿って丁寧に切り取り、トランプ大の32枚のカードをつくる。
- ・カードをよくきって、他の班のカードと交換する。
- ・教師の合図でパズル合わせを始め、できるだけ早く組み合わせる。
- ・全ての班が完成したところで順位を発表する。
- ・活動を振り返り、気づいたことや感じたことを話し合う。

<準備>
絵柄のはっきりした新聞紙
はさみ

ルール

楽しくやるがふざけない
正直に自分を表現する
人を傷つける言動をしない

活動の振り返りでは、教師が次のような具体例を示しながら子どもにそのポイントを理解させることが大切です。

(例)「私が困っていたときに、さんが教えてくれてうれしかった・・・」等



(例2) 私はわたしよ

ねらい:「お互いを知る」

・白い紙を配り、自分がクラスの他の人と違う点、他の人にはない自分自身の経験や個性であると思われることを3つ書く。この用紙は回収し、教師が読み上げ、皆に名前を当ててもらうことを予告しておく。(教師も記入して、混ぜておく)

例) ぼくは足を骨折したことがある。わたしは生まれが沖縄である。私は虫が嫌いである。

- ・時間がきたらプリントを集め、教師が一人ずつ読み上げるのを聞き、名前を当てていく。
- ・活動を振り返り、気づいたことや感じたことを話し合う。

<準備> 白い紙(人数分)

6人位のグループで行っても盛り上がります。

(例3) さいころトーク

ねらい:「仲間を認め合い共通点を発見する」

- ・6人組をつくる。
- ・グループごとに話す順番を決め、サイコロを振って出た番号に関する話をする。(最初に教師がサイコロを振って子どもたちの前で話してみせます。)

例) 1 うれしかった話 2 困った話 3 はずかしかった話
4 悲しかった話 5 楽しかった話 6 怖かった話

- ・活動を振り返り、気づいたことや感じたことを話し合う。

グループに分けず、順番制にして朝の会や帰りの会に1分間スピーチの代わりに実施することもできます。その場合、話の苦手な子には前もって話す内容について教師と一緒に考え、メモを見てもよいことにします。

<準備>
サイコロ(グループ分)

実施する活動については、様々なゲーム集などから、「これならできそうだな」というものを選んでみることで。

体育の授業の準備運動で「凍り鬼」をしたり、国語の授業に伝言ゲームを取り入れたり、教科の授業の中に振り返りの機会を設けてお互いのよかった点を伝えあったりするなどのちょっとした工夫が子ども同士の関係づくりにつながります。

